



一般社団法人

ハウスワランティ

東京都墨田区両国 3 丁目 25 番 5 号 JEI 両国ビル 11 階
〒130-0026
TEL03-5638-0086 FAX03-5638-0076
<http://www.house-warranty.or.jp/>

NEWS RELEASE 新商品・住宅・地盤

2015 年 2 月 19 日

報道関係者各位

新サービス「地盤保証物件全棟に標準で液状化診断付き」開始

さらに、地盤保証の新商品「地盤保証＋液状化保証」を発売

累計 27 万棟の豊富な実績と高い解析力で確かな保証体制を実現しました。

戸建て住宅を中心に地盤保証を行っている一般社団法人ハウスワランティ(所在地:東京都墨田区、代表理事:森田靖英)は、地盤の液状化のリスクを簡易的に診断する体制を確立し、2015 年 2 月 21 日から、地盤保証対象物件全棟に対し、液状化診断を新サービスとして行います。併せて、地盤保証と液状化保証をセットにした新商品を発売いたします。

東日本大震災以来、地盤の安全、災害リスクを回避するよう地盤業界では各社、各団体で様々な取り組みを行っています。一般社団法人ハウスワランティではさらなるお客様への安心と業界の発展に寄与したく、今までは地盤保証の特約として取り扱われていた液状化保証について、さらなるサービスの充実を図るため新サービスの開始とともに新商品を発売いたします。

＜液状化診断及び地盤保証＋液状化保証について＞

一般社団法人ハウスワランティの液状化判定は、微地形区分と地下水位の考察に基づき、一次判定を行います。一次判定の結果により、さらにスウェーデン式サウンディング試験調査データ等から、測点の液状化指標値(PL値)と地表変位量(Dcy値)を簡易的に算出して二次判定を行います。今回の新サービスは、地盤調査データの解析時、全棟にこの液状化診断サービスを無料で行います。

また、これらの判定結果に基づく診断により、従来の地盤保証に 10 年間(更新可)、保証限度額 500 万円、免責 0 円の液状化保証をつけることができる新商品を 40,000 円(税別)にて発売いたします。液状化保証は地震に起因する地盤の液状化現象により不同沈下した建物の沈下修正工事を保証します。(この保証は上記判定結果により、液状化対策が必要であると結果が出た場合、液状化対策を実施した物件が対象になります。)

一般社団法人ハウスワランティでは、液状化診断を地盤保証物件全棟に行い、さらには地盤保証と液状化保証を商品化することで、地盤保証と共に液状化保証が広がり、一般ユーザーにも地盤の大切さ、液状化による沈下を事前回避することが大切であることを認識していただき、地盤、または建築業界全体で、より安全に安心してお住まいになれる住環境を提案してゆくことを期待しています。

＜概要＞

一般社団法人ハウスワランティは、地盤保証事業をより強固な形にしていくため、新たに一般社団法人として設立されました。これによって、これまで単独で行われてきた保証制度より、さらに安全性が高まり、お施主様には大きな安心感をもたらすことができるでしょう。

私たちはこの活動を通して、住宅事業者様のさらなる発展と共に、我が国に良質な住環境を構築していくことを目指して力を注いで参ります。

＜一般社団法人 ハウスワランティ 社団概要＞

設立：平成 21 年 7 月 代表者：森田 靖英

事業内容：住宅地盤データの解析と保証事業、住宅地盤データの解析結果に基づく適切な基礎設計の認定と保証事業、構造的根拠に基づく住宅構造設計、及びプレカット加工図設計の認定と保証事業、住宅構造・基礎・地盤技術者の教育、研修事業、住宅構造・基礎・地盤に関する講演会、見学会及び啓発活動

関連会社：シールドエージェンシー株式会社、株式会社ハウスビジネス、ホームストネットワーク株式会社

参考資料 簡易液状化診断書(例)

簡易液状化診断書

発効日 2015/02/13

顧客番号 Sample2-1
物件名 両国太郎様邸
物件所在地 東京都墨田区両国

〒130-0026 東京都墨田区両国3-25-5
JEI両国ビル11階
TEL03-5638-0086 FAX03-5638-0076

診断結果 **顕著な被害の可能性が低い**

一次判定

① 山地、丘陵、台地、段丘等の地形である	<input checked="" type="checkbox"/>
② 地下水位が-5.0m以深である	<input checked="" type="checkbox"/>
③ ①、②のどちらにも該当しない	<input type="checkbox"/>

一次判定の結果「液状化の顕著な被害の可能性が低い」と判定いたします

参考資料

＜代表的な地形の液状化可能性＞

- 上記の図のように、液状化の発生する可能性は地形によって異なることができます。特に、山地、丘陵、台地、段丘などの地形に関しては、液状化の発生する可能性が極めて少ないことから、二次判定による検討の必要性はなしといたします。
- また、戸建て住宅などの軽量の建築物の液状化による被害は、地表面から5mまでの地下水に満たされた緩い砂質土層で発生する液状化が起るものとされており、地下水位が-5.0m以深の場合も、二次判定による検討の必要性はなしといたします。

【参考文献】小規模建築基礎設計指針 2008 日本建築学会(文章、図4)

- この簡易診断は、中規模程度の建築（最大床面積200㎡、M7.5）が、戸建て住宅等に与える液状化被害の可能性を想定したものです。
- この簡易診断の判定力は、「地中の液状化可能性を定量的に評価する指標（HI値）を算出する」という点にあり、主にSWS試験データに基づいて、地中の液状化可能性を定量的に評価したものであり、必ずしも高い信頼性を保証するものではありません。サンプリングによる土質調査が実施でき、あくまでも参考資料としてお読みください。
- 「顕著な被害の可能性が高い」と判断された場合は、適切な設計に留意し、液状化対策が実施されます。
- この簡易診断に関するお問い合わせは、弊社までご連絡ください。http://www.house-warranty.or.jp/

簡易液状化診断書

発効日 2015/02/13

顧客番号 Sample2-2
物件名 両国太郎様邸
物件所在地 東京都墨田区両国

〒130-0026 東京都墨田区両国3-25-5
JEI両国ビル11階
TEL03-5638-0086 FAX03-5638-0076

診断結果 **顕著な被害の可能性が比較的低い**

一次判定

① 山地、丘陵、台地、段丘等の地形である	<input type="checkbox"/>
② 地下水位が-5.0m以深である	<input type="checkbox"/>
③ ①、②のどちらにも該当しない	<input checked="" type="checkbox"/>

一次判定の結果、二次判定を行いました

二次判定

※ SWS試験データから、測点Aの液状化指標値（PL値）と地表水位（Dy値）を算定します

PL値分布図

HI~PL及びDy判定図

地質地層

最大水深	200 ㎍	
サブグレード	M7.5	
土質	γ (kN/m ³)	Fc (%)
砂質土	15	50
粘質土	15	10
埋立土	10	0

γ = 飽和単位体積重量
Fc = 細粒分含有率

■ 地下水位 ■ HI値
□ PL値1以下 □ PL値1より大

判定結果	HI値 (m)	PL値 (kN/m ³)	Dy値 (cm)	液状化被害の可能性
C	HI ≤ 3	≥ 5	≤ 5	液状化被害の可能性が高い
B3	3 < HI ≤ 5	≥ 5	≤ 5	顕著な被害の可能性が比較的低い
B2	3 < HI ≤ 5	≥ 5	> 5	顕著な被害の可能性が比較的低い
B1	3 < HI ≤ 5	< 5	< 5	顕著な被害の可能性が比較的低い
A	HI > 5	—	—	顕著な被害の可能性が低い

二次判定の結果、「顕著な被害の可能性が比較的低い」と判定いたします

- この簡易診断は、中規模程度の建築（最大床面積200㎡、M7.5）が、戸建て住宅等に与える液状化被害の可能性を想定したものです。
- この簡易診断の判定力は、「地中の液状化可能性を定量的に評価する指標（HI値）を算出する」という点にあり、主にSWS試験データに基づいて、地中の液状化可能性を定量的に評価したものであり、必ずしも高い信頼性を保証するものではありません。サンプリングによる土質調査が実施でき、あくまでも参考資料としてお読みください。
- 「顕著な被害の可能性が高い」と判断された場合は、適切な設計に留意し、液状化対策が実施されます。
- この簡易診断に関するお問い合わせは、弊社までご連絡ください。http://www.house-warranty.or.jp/

【報道関係者様のお問合せ先】

一般社団法人ハウスワランティ 技術部

TEL03-5638-0086 FAX03-5638-0076 E-mail: info@house-warranty.or.jp